



本メールマガジンは山梨大学 新技術情報クラブ会員の皆様へ最新情報をお知らせする目的で配信しております。メール配信を希望されない方は、「配信停止」とお書きの上、ご返信ください。

コーディネーターコラム

社会連携・知財戦略室

地域連携コーディネーター 山田 尚

8月1日より山梨中央銀行地方創生推進部から派遣されて参りました山田尚と申します。山梨中央銀行では県内外の大学との連携担当として従事し、特に山梨大学においてはシャインマスカット栽培支援ロボット開発コンソーシアムにおける山梨中央銀行の担当となっています。その他、商談会や販売会といった地元企業の販路開拓支援のイベント企画・運営を担当しておりました。

私の子供が現在大学生ですが、今の大学がどうなっているのかほとんど知らず、また私自身が県外出身者かつ文系ということもあり山梨大学の強みなどが頭に入っていません。

山梨大学に勤務するようになってから新聞で気になる記事も変わりあらためて少子高齢化と人口減少が地方に与えるインパクトの強さや怖さを感じています。

今後は、大学界や山梨大学の先生の研究について勉強し、県内外の企業との橋渡しができるように努力して参ります。どうぞ宜しくお願いいたします。

農業法人や農業関連の政府系金融機関へ派遣されたこともあるので、最近の異常な暑さが農作物、とりわけ果樹に与える影響が気になっておりました。そんなところに、ワイン科学研究センターの研究を取材する機会があり、山梨大学ワイン科学研究センターはまさに今のブドウ業界のピンチを救う救世主だと感じました。

また、トマトの残渣を有効活用する新たな方法を山梨大学と県内の企業で共同研究として検討する現場に立ち合わせていただきました。この共同研究が実現すると、世界中から山梨が、山梨大学が注目を浴びることになるだろうな、と一人興奮しております。

この他、山梨大学に来るまではゲームアプリ開発企業と大学の先生をお引き合わせしたところ、話し合いはとても盛り上がりました。ゲームアプリ開発と大学の研究に親和性があるとは想像していなかったので、大学のツボを会得するにはまだまだ修行が必要なようです。これからいろいろ勉強していきますので今後ともご指導いただければ幸いです。

インフォメーション 目次

- 01: プレスリリース (4件)
- 02: トピックス (8件)
- 03: イベント情報 (1件)
- 04: 山梨大学特許公開情報 (3件)
- 05: 事務局からのお知らせ





◆高性能高耐久性水電解セルを可能とするアニオン膜を開発

山梨大学クリーンエネルギー研究センター・早稲田大学理工学術院の宮武 健治（みやたけ けんじ）教授らの研究グループは、電気エネルギーを用いて水素と酸素を得る水電解デバイスの性能を大幅に向上させる新たなアニオン膜※1、Quaternized Terphenylene Alkyl Fluorene (QTAF)

の開発に成功しました。

本研究成果は、2024年9月29日（日）にドイツ化学会が発行するハイインパクトな学術雑誌『Advanced Energy Materials』のオンライン版で公開されました。

詳しい内容については、下記 URL よりご覧ください。

<https://www.yamanashi.ac.jp/wp-content/uploads/2024/10/20241028pr.pdf>

◆ベルトや下着などの締め付けによって蕁麻疹が起こるメカニズムを解明

山梨大学大学院医工農学総合教育部医学専攻（博士課程）の小林義照大学院生と山梨大学大学院総合研究部医学域中尾篤人教授（免疫学）のグループは、アレルギー疾患の病変部で広く上昇が認められる IL-33 という

タンパク質（サイトカイン）が、マスト細胞に作用すると、PIEZO1 という触覚や聴覚、平衡感覚などを感知する圧力センサータンパク質の発現を強く誘導すること、その結果、物理的刺激（圧力）に対するマスト細胞の感受性が高まり、軽微な触圧刺激であっても、マスト細胞からヒスタミンが放出され、痒みや炎症が誘発されることを見出しました。本研究の成果は、11月15日に、アレルギー研究で最も権威ある欧州アレルギー学会誌 Allergy (impact factor 12.4) にオンライン発表されました。

詳しい内容については、下記 URL よりご覧ください。

<https://www.yamanashi.ac.jp/wp-content/uploads/2024/11/20241122pr.pdf>

◆山梨大学大村智記念学術館 リニューアルオープン セレモニーを挙

本学では、ノーベル生理学・医学賞を受賞された本学卒業生の大村智特別栄誉博士から、新たにノーベル賞メダル（オリジナル）を含む多数のメダル、賞牌、勲章など57点を寄贈いただきました。これらの寄贈品を大村智記念学術館に全て展示するため、この度、同館をリニューアルしました。

令和6年12月11日（水）、山梨大学甲府西キャンパス大村智記念学術館2階大村記念ホールにおいて大村博士を迎え、リニューアルオープンセレモニーを挙

◆「医療機器産業技術人材養成講座 事業化コース」の閉講式の挙

令和6年12月12日（木）、山梨大学医学部キャンパス シミックプラザ2階多目的室1において、「医療機器産業技術人材養成講座 事業化コース」の閉講式を挙

本学では、山梨県からの委託を受け、平成27年度から県内の社会人技

術者等に対し医療機器製造に必要な知識や技術を習得する機会を提供するために「医療機器産業技術人材養成講座」を開講しております。今年度から、医療機器産業分野を新たな経営の柱にすることを目指す県内中小企業等の方々を対象に、市場獲得に向けた事業化戦略等を立案できるような人材の育成を図るため、「医療機器産業技術人材養成講座 事業化コース」を新設し、県内企業の経営者層を中心に8名が受講し、全日程を修了しました。



■02 トピックス (8件)

◆令和6年度「やまなし産学官連携研究交流事業」研究発表会を開催

令和6年10月23日(木)、山梨県立図書館において令和6年度「やまなし産学官連携研究交流事業」研究発表会を開催いたしました。これは、山梨県と締結している「包括的連携協定」に基づき、産学官連携により本学や県各試験研究機関等で実施した機械・電子・食品・医療・地場産業など幅広い研究テーマの成果を発表するもので、記念講演では、工業製品、伝統工芸品のプロダクトデザイナーとして活躍する大沼 敦氏(株式会社大沼デザインスタジオ)が「『プロダクトデザインとその背景』～ 山梨の可能性 ～」と題し、現在求められるデザインや、山梨県の可能性について講演し、企業・団体・自治体関係者や本学教職員等約120名が参加しました。

詳しい内容については、下記 URL よりご覧ください。

<https://www.yamanashi.ac.jp/50421>

◆世界で最も影響力のある科学者トップ2%」に本学から16名の研究者がランクイン

科学分野で影響度の高い科学者を特定する研究者リスト「標準化された引用指標に基づく科学者データベース」が2024年9月17日付で更新・公開(スタンフォード大学(米国)とエルゼビア社が作成)され、本学からは「生涯(career-long)」区分で13名、「単年(single recent year)」区分で13名が選出されました。

詳しい内容については、下記 URL よりご覧ください。

<https://www.yamanashi.ac.jp/50527>

◆ネーミングライツオープニングセレモニー

令和6年11月13日(水)甲府東キャンパスにおいて、株式会社加藤電器製作所と大学施設ネーミングライツ契約を締結し、対象施設のオープニングセレモニーを挙行了しました。本学では、令和3年10月に教育研究環境の向上等を目的として、法人等が大学内の施設の命名権を得られる「ネーミングライツ制度」を導入しております。

詳しい内容については、下記 URL よりご覧ください。

<https://www.yamanashi.ac.jp/50627>

◆都留市と包括的連携協定締結式を挙行

令和6年11月18日(月)、都留市役所において、都留市との包括的連携協定締結式を挙りました。

本協定は、本学と都留市が人的資源の交流や物的資源の相互活用など幅広い分野で協力し、地域課題解決のための取り組みを行うとともに、相互の発展につなげることを目的に締結したものです。

詳しい内容については、下記 URL よりご覧ください。

<https://www.yamanashi.ac.jp/50665>

◆三菱ふそうトラック・バス株式会社との包括的連携協定締結式を挙
令和6年12月2日(月)、大村智記念学術館において、三菱ふそうト
ラ

ック・バス株式会社との包括的連携協定締結式を挙りました。
本協定は、本学と三菱ふそうトラック・バス株式会社の相互の発展に寄与する目的で、(1)研究開発、(2)人材交流、(3)教育・研修の機会の共有、(4)その他の分野において、包括的な連携を図ることを目的に締結したものです。

詳しい内容については、下記 URL よりご覧ください。

<https://www.yamanashi.ac.jp/50756>

◆令和6年度山梨大学半導体セミナーを開催

令和6年11月29日(金)、大村智記念学術館において、令和6年度山梨大学半導体セミナーを、現地・オンラインのハイブリッド形式で開催し、本学学生や民間企業の技術・研究者など、約250名が参加しました。山梨県には、半導体製造に関わる多くの企業が存在し、県の経済の一翼を担っている一方で、半導体に携わる人材不足の問題が顕在化し始めています。本学では、こうした背景を踏まえ、半導体関連企業と連携しながら将来を担う優秀なエンジニアを育成し、半導体に関連する人的交流を図ることを目的に、本セミナーを開催しました。

詳しい内容については、下記 URL よりご覧ください。

<https://www.yamanashi.ac.jp/50838>

◆第2回大村記念微生物資源研究フロウティラシンポジウム「天然化合物の新展開－RNAを標的とする創薬の可能性」を開催

令和6年12月4日(水)、大村智記念学術館において、第2回大村記念

微生物資源研究フロウティラシンポジウム「天然化合物の新展開－RNAを標的とする創薬の可能性」を開催し、本学関係者・学生、北里大学をはじめとする学外研究者等多数が参加し、天然化合物の新展開・創薬という視点から最新の研究を学ぶ有意義な機会となりました。

詳しい内容については、下記 URL よりご覧ください。

<https://www.yamanashi.ac.jp/50944>

◆アグリビジネス創出フェア2024(主催:農林水産省)に出展

本フェアは、全国の産学官の機関が有する、農林水産・食品分野などの最新の研究成果を展示やプレゼンテーションなどで分かりやすく紹介し、研究機関同士や研究機関と事業者との連携を促す場として開催する「技術交流展示会」です。

令和6年11月26日(火)～28日(木)、東京ビックサイトにおいて

本学は以下の4件を出展し、多くの方々に技術シーズを発信してまいりました。

・発表テーマ：「食品ロスを再資源化し、新たな製品（キノコなど）へと再生する地域循環型食料生産システムの構築」

氏名：山梨大学 生命環境学域（生命農学） 准教授 片岡良太

・発表テーマ：「AIを活用したぶどう栽培支援技術」

氏名：山梨大学 工学域（コンピュータ理工学） 理事 茅暁陽

・発表テーマ：「サクランボ自動選果システム（サイズ、等級、病害虫鳥獣被害果検出・除去）」

氏名：山梨大学 工学域（機械工学） 教授 小谷信司

・発表テーマ：「乳酸菌や酵母を用いた発酵食品開発」

氏名：山梨大学 生命環境学域（生命農学） 教授 柳田藤寿

詳しい内容については、下記 URL よりご覧ください。

<https://agribiz.maff.go.jp/>



03 イベント情報 (1件)

◆令和7年度山梨大学客員社会連携コーディネータ研修開催予定

現在、委嘱対象機関に客員コーディネータの推薦を依頼しており、来年度も2月に開催を予定しております。



04 山梨大学特許公開情報 (3件)

本学整理番号：P22-033PCT

国際出願番号：PCT/JP2023/046271 出願日：2023/12/22

国際公開番号：WO2024/143230 公開日：2024/07/04

発明の名称：電極触媒、アニオン交換膜型電気化学セル

出願人：国立大学法人山梨大学

発明代表者：柿沼 克良 先生

発明の概要：

【要約】

耐久性、物質伝導性及び導電性に優れ、かつ安価に製造可能な電極触媒を提供する。本発明によれば、空隙を有する含空隙体で構成される電極触媒であって、前記含空隙体は、コア部と、前記コア部を被覆するスキン層を備え、前記コア部は、金属で構成され、前記スキン層は、Niと、Niよりも原子番号が大きい金属元素を含有する酸化物で構成される、電極触媒が提供される。

<https://www.j-platpat.inpit.go.jp/c1801/PU/WO-A-2024-143230/50/ja>

本学整理番号：P23-002

出願番号：特願 2023-027823 出願日：2023/02/24

公開番号：特開 2024-120779 公開日：2024/09/05

発明の名称：アレルギー性鼻炎の重症度評価用バイオマーカーおよびアレルギー性鼻炎の重症度を

評価する指標を取得する方法

出願人：国立大学法人山梨大学

発明代表者 : 石井 裕貴 先生

発明の概要 :

【要約】

【課題】患者から得られた検体を用いて、精度よくアレルギー性鼻炎の重症度を評価するための指標を取得する方法とバイオマーカーを提供する。

【解決手段】鼻汁試料中に含まれる一次代謝産物のうち、アルギニン、アルギニノコハク酸、シトルリン、グアノシン、グルタミン、グリシン、リシン、リンゴ酸、尿酸、コハク酸およびトレオニンからなる群から選択される一次代謝産物を少なくとも1種類含む、アレルギー性鼻炎の重症度評価用バイオマーカーである。

<https://www.j-platpat.inpit.go.jp/c1801/PU/JP-2024-120779/11/ja>

本学整理番号 : P23-003

出願番号 : 特願 2023-036623 出願日 : 2023/03/09

公開番号 : 特開 2024-127458 公開日 : 2024/09/20

発明の名称 : キメラタンパク質

出願人 : 国立大学法人山梨大学

発明代表者 : 金 然正 先生

発明の概要 :

【要約】

【課題】PLCの活性化を特異的に制御できる光駆動型システムを構築するための分子を提供すること。

【解決手段】ホスホリパーゼCのTIMドメイン、SspBドメイン、及びホスホリパーゼCのbarrelドメインを有することを特徴とする、キメラタンパク質である。

<https://www.j-platpat.inpit.go.jp/c1801/PU/JP-2024-127458/11/ja>

□ ■

■05 事務局からお知らせ

◆技術課題等、ご相談について

技術課題や大学の知恵を借りたいなど、ございませんでしょうか。

会員会社様の持つておられる技術課題を伺います。

ご希望の会員様がございましたら、事務局までお気軽に連絡してください。

■

1) このメールの内容は、提供された会員様限りでご使用下さい。

2) メールの内容については国立大学法人山梨大学が著作権を有します。

■ □ ■

■ □ ■

■ □ ■